

環境教育プログラムの開発に関する実践的研究	
題目	子育てにおける保護者のスマートデバイス使用場面における自宅・自宅外の比較
著者	神宮文代 小野田弘士

## 1. 概要

子育てにおける保護者のスマートデバイス使用の実態把握について、質問紙調査(データ収集時期:2019年3月~7月)を用いて量的に把握することを試みた。

## 2. 2022年度の研究成果

研究対象は、東京を中心とした首都圏(以下、首都圏)と北海道を中心とした地方都市(以下、地方都市)の未就学児の保護者、計300名である。

スマートデバイス使用場面における自宅と自宅外の関連をみるため、自宅得点(「まったくない」0点~「よくある」4点で5項目の合計点)と自宅外得点(「まったくない」0点~「よくある」4点で4項目の合計点)をクロス集計した。その結果、自宅での使用と自宅外での使用の関連は非常に強いことがわかった(相関係数 $r=0.272, p<0.01$ )。下記にそれぞれの場面を見る。

図1より、自宅において親が(病気、家事や仕事などで)手がはなせないときに使わせることがある場合と、自宅外での使用において1%水準で有意差が認められた( $df=3, F=14.162, p<0.01$ )。「よくある」の自宅外得点が6.98、「少しある」は6.5、「あまりない」は6、「全くない」が4.85であった。自宅において親が(病気、家事や仕事などで)手がはなせないときに子どもに使わせている場合には、自宅外でも使わせていることがわかった。図2より、自宅において子どもが使いたがるときに使わせることがある場合と、自宅外での使用において1%水準で有意差が認められた( $df=3, F=6.287, p<0.01$ )。「よくある」の自宅外得点が6.4、「少しある」は6.63、「あまりない」は5.92、「全くない」が5.09であった。自宅において子どもが使いたがるときに子どもに使わせている場合には、自宅外でも使わせていることがわかった。図3より、自宅において家族でくつろいでいるときに使わせることがある場合と、自宅外での使用において1%水準で有意差が認められた( $df=3, F=5.384, p<0.01$ )。「よくある」の自宅外得点が7.08、「少しある」は6.51、「あまりない」は5.95、「全くない」が5.58であった。自宅において家族でくつろいでいるときに子どもに使わせている場合には、自宅外でも使わせていることがわかった。図4より、自宅において食事中に子どもに使わせることがある場合と、自宅外での使用においては関連が認められなかった。図5より、自宅において寝るまでの時間に子どもに使わせることがある場合と、自宅外での使用において5%水準で有意差が認められた( $df=3, F=3.078, p<0.05$ )。「よくある」の自宅外得点が6.46、「少しある」は6.62、「あまりない」は6.53、「全くない」が5.78であった。自宅において寝るまでの時間に子どもに使わせることがある場合には、自

宅外でも使わせていることがわかった。

以上より、「食事中」を除いて、「自宅で」使わせている場合ほど「自宅外で」も使わせているといえる。

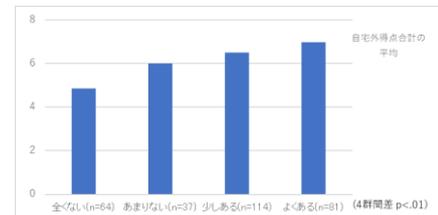


図1 親が(病気、家事や仕事などで)手がはなせないとき、子どもに使わせることがある×自宅外得点

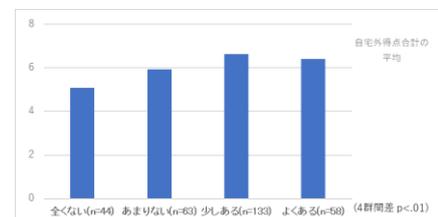


図2 子どもが使いたがるとき、使わせることがある×自宅外得点

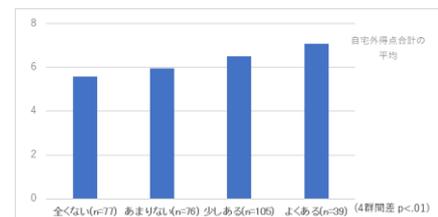


図3 家族でくつろいでいるとき、子どもに使わせることがある×自宅外得点

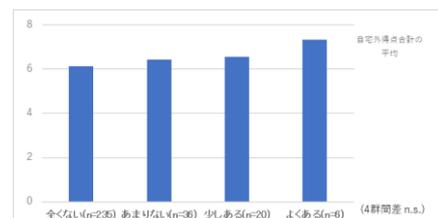


図4 食事中に子どもに使わせることがある×自宅外得点

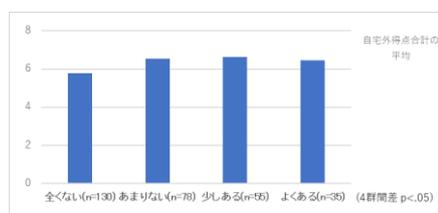


図5 寝るまでの時間に子どもに使わせることがある×自宅外得点

## 3. 成果発表等

- (1) 神宮文代: 子育てにおけるスマートデバイス活用についての面接調査(2021), 第13回大会日本子育て学会, 50-51.
- (2) (単著) 神宮文代: 保護者の意識と行動の関係から見た子育てにおけるスマートデバイスの活用方法について(2021), K&K出版.